

# 居住支援事業を開始して

---

第1回居住支援セミナー

社会福祉法人協同福祉会

理事長 新井 浩之

# 社会福祉法人協同福祉会の紹介

- 群馬中央医療生協が、2016年前橋市の特養設置希望者応募し、指定。
  - 2017年3月社会福祉法人の設立認可。当法人の誕生
  - 2018年8月特別養護老人ホームほなみ OPEN
    - ユニット型40室、従来型30室、ショート10室
    - ホームヘルパー、定期巡回随時対応訪問介護
    - 企業主導型保育虹の子保育園（19名定員）
- 私たちの使命 無差別平等のふくし、多様性の尊重される社会を、参加と協同で実現します



# 理念を具体化したケア

# なぜ居住支援なのか

---

- 2020年2月以降の新型コロナウイルスの拡大の中、生活困窮の電話相談（リーマンショック以上の相談）
- 2020年8月 前橋協立病院で外国人医療相談会  
11月 川口市でのクルド人支援ボランティア
- ひきこもり支援（ほっと倶楽部）ボランティア

困窮者支援の土台に生活基盤の確保 = すなわち住いの支援が必須と実感

# 調べてみた、考えてみた

---

- 前橋市の知的障害2,394人、精神2,303人がおり、また2025年までに認知症は18,293人と予測されている。
- 単身高齢者は現在14,527人という状況
- ひきこもり 40～60代で61万人若年層を加えると115万人、前橋市でも推計1600人とされている。  
8050問題に

社会福祉法人として貢献できる事業は何か？

# 協同福祉社会ビジョンにむけて

---

- 住いの支援 = 居住支援 2021年度実施
  - 権利擁護 = 法人後見事業（意思決定支援） 2022年以降
  - 就労を通じて社会とつながる支援（就労支援） 2021年度認可済
  - 以上を通じて高齢者・障害者・困窮者のすまい 2023年以降
- イメージは  
高齢者向け住宅 + グループホーム + 日常生活支援居住施設の併設

# 居住支援部の体制

---

- 責任者 山口（ほなみ副施設長）
- 専従 佐藤（当面火曜日・金曜日）
- 兼務 飯田（窓口・補佐・実務担当）
- 指導援助 新井（理事長）

# 居住支援を開始して

---

- 相談件数
- 内訳
- 特徴



# 気づき

---

- 専門支援機関と民間（地域）の連携機能が必要
- 機動的な連携機能が必要
- 福祉施策全般の底上げが必要

# 連携機能

---

- 要配慮者本人に対する支援に必要な機関との連携  
社会福祉課・自立支援機関・保険や税機関・後見人  
法曹関係・医療機関・地域包括など
- なによりも住居の受け皿となる住宅での連携  
セーフティネット住宅で入居可能の登録住宅  
生活保護の賃貸料で入居できる住宅数  
保証人問題

# 機動的な連携

---

- 入院中だが退院（治療完了）
- 退去期間がせまっている

など、スピード感のある対応が求められるケースが多く、そのニーズに応えていく必要がある。

実際に、困窮者や配慮者が一時的にであれ身を寄せられる施設の確保が必要

# 福祉施策の底上げ

---

- 無料低額宿泊所がない→日常生活支援居住施設の必要性は？
- セーフティネット住宅のネットワークづくり  
廉価な賃貸料（例えば生活保護の住宅扶助以内）の物件が少ない。
- 必要即応の原則（生活保護）への対応や申請から決定までの生活保障の在り方。
- 公的住宅を利用する際の課題

# あるべき居住支援とは？

---

- 半年間、居住支援に取り組んで特に連携の必要性を実感している。
- 本日、パネラーとしてご出席いただいている関係機関、あるいは住宅提供機関とどのような連携を考えていけばよいか、ご一緒に検討いただく場とさせていただければさいわいです。